

## 素晴らしい英語教育

松浦 純子

二百ページ以上にわたって書かれた小学校学習指導要領（平成二十九年告示）解説という分厚い冊子がある。ぱらぱらっと見ると、外国語の学習の目標は、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す」とある。

さらにページをめくると、小学三年生・四年生の英語の学習については、「実際に英語を用いた言語活動を通して、次の事項を体験的に身に付けることができるよう指導する。

- ア 言語を用いて主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知ること。
- イ 日本と外国の言語や文化について理解すること。
- Ａ 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと
- Ｂ 日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があふることに関心すること。
- Ｃ 異なる文化をもつ人々との交流などを体験し、文化等に対する理解を深めること・・・」

素晴らしい目標である。これを学校の授業だけで、または塾には行かないで小学三年生ができるようになるのか。PCを使ってネイティブと会話するというプログラムもあるが、費用は結構かかる。映画やYouTubeは一方通行。日本に住んでいる外国人の数は中国人が全体の四分の一を占め、ベトナム人、韓国人、フィリピン人、ブラジル人と続く。この五か国で全体の七割を超えるが、彼らの母国語は英語ではない。英語で話しかけても知らない言語がかえってきそう。

また、小学校の社会科で外国の生活や習慣、行事等について学ぶのは、六年生の三学期ごろで「グローバル化する世界と日本の役割」のところだ。多くの小学校では六年生を送る会や卒業式の練習で忙しく、軽く済ますか省略されてしまうところである。文科省が示しているように英語を使って交流や体験ができる小学生はどれくらいいるのだろうか。

\*指導要領内の記号は見やすくするために変えてある。